

WEB 版

# 山梨県言語聴覚士会

2013. February

Vol.25

## NEWS

〈目次〉 P1…新年の挨拶 P2…学術大会報告 P5…学会・研修会参加報告 P6…新設局・部の紹介  
P8…各局からの紹介 P10…ふるさと紹介、病院・施設紹介 P11…ちょっといい話、会員 Pick Up!

### 新年の挨拶

会長 内山 量史

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。2013年が会員の皆様にとってさらに素晴らしい1年になりますよう心からお祈り申し上げます。

さて、2012年の活動を振り返ると、充実した学術活動や広報、職能活動に加えて新たな事業や活動も実施されました。

まず、7月に甲府市で開催された日本言語聴覚士協会の全国研修会です。協会の担当部署と連携が上手くとれないというハプニングもありましたが、当会の講演会運営のノウハウを活かすことで無事に開催されたことは、これまでの活動の積み重ねが反映されたものであり、運営に携わった会員が頼もしく感じられました。また、全国研修会と学術大会で実施された東日本大震災復興支援チャリティーは初の試みであったものの、これまでの活動に幅をもたらす社会活動として評価に値すると思います。我々の活動の一部を復興の支援に繋げたいという思いに賛同していただいた障害者福祉施設、企業の方々に感謝申し上げます。また、多くの会員がこのチャリティーの趣旨を理解して参加していただき、7万円を超える支援金を福島県言語聴覚士会に寄付できたことは大変喜ばしいことであり、当士会の結束力と実行力を再確認できた活動でした。これからも当士会は東日本大震災による復興を応援していきます。

昨年度から継続されています山梨県理学療法士会、山梨県作業療法士会との連携に関しては、「山梨県訪問リハビリテーション協議会」の立ち上げや三士会合同学術大会（2014年11月予定）、災害時に三士会が協力して動ける組織作りなど、他県では例のない合同事業が企画されております。ここ山梨県の三士会での合同事業が全国の地方組織の連携のモデルとなるよう今後も強力な連携体制を図っていきたいと思います。

行政関係としては、診療報酬・介護報酬の同時改定が行われ、医療と介護の連携を進めて在宅療養を強化する方向が明確に打ち出されました。この政策を受けて山梨県では「山梨県介護・医療連携推進協議会」が発足され、県内の現状と課題点などについて28団体によって定期的に協議されるようになりました。また、小児領域においては特別支援教育の充実を図る目的で教職員に加えて言語聴覚士等の専門家の活用の必要性が中央教育審議会初等中等教育分科会で報告されております。このことは将来的に学校への言語聴覚士の配置が示唆されたものであり、今後さらに学校教育の中に深く関わっていくことが予想されます。これらに関しては担当理事を適切に配置することで情報交換、情報の開示等に努めたいと思っております。

当士会の活動は発足当時の「言語聴覚士の資質の向上を目指し、言語聴覚障害に関する知識の普及を図る」といった目的以外にも、上述した通り、社会・医療の変化に伴って「多職種との連携の下、多様化するニーズに応える」といった新たな目的が付加されたと解釈しております。このようなニーズに応えるためにも2013年、“進化”する山梨県言語聴覚士会を共に作っていきましょう。本年も県士会活動にご理解・ご協力をお願い申し上げます。



## 山梨県言語聴覚士会第5回学術大会を終えて

大会長 望月 真由美

2012年11月11日、山梨学院大学を会場に「山梨県言語聴覚士会第5回学術大会」が開催されました。周囲の黄金に色づいた山々に秋雨が降り注ぎ、冬の到来を思わせるような肌寒い一日でしたが、82名という大勢の方々にご参加をいただき、開催することができました。

大会当日までには、4回の実行委員会を開催し、オブザーバーの内山量史会長、中村晴江副会長、並びに実行委員の方々、また査読委員の先生方には準備や運営などに多大なるご尽力をいただきました。また、発表をしてくださった先生方、シンポジストの先生方など多くの方々のご協力をいただき、充実した大会を終えることができたことに深くお礼申し上げます。

今年度は医療・介護保険の診療報酬が同時改定された年であり、私たち言語聴覚士も他領域との「連携」を余儀なくされる場面が増えてきました。また、私たちの働くフィールドも多様化してきたことを踏まえ、今回は「我々に何ができるのか～生活を見据えた言語聴覚療法を考える～」をテーマに共に学び、考えたいと思い企画させていただきました。

一般口述では8演題の発表をいただき、それぞれの院所での取り組み、ご活躍の様子を伺うことができ、自分たちが行なっている臨床と照らし合わせて学ぶことが多くあったのではないかと思います。

特別講演では、「コミュニケーション障がいがある人への生活支援を考えるー医療保険・介護保険現場での経験をふまえてー」と題し、お二人の先生のご経験を元に講演をいただきました。上杉由美先生（介護老人保健施設ピースプラザ）の講演では「失語症患者の生活再建は容易なことではないが、長期的な関わりの中で言語機能が改善することを実感し、暮らしぶりの変化を追うことができる、診療報酬制度に合わせてリハビリを行なうのではなく、失語症者のペースに合わせてリハビリ・支援ができる体制が必要」というお言葉に、自らの患者様との関わりを振り返る機会となりました。また、友の会の活動においても「言語聴覚士が積極的に支援を行なう必要がある」とおっしゃっていただき、大会後に予定されていた「山梨失語症者のつどい」への大きな励みとなりました。また、半田理恵子先生（医療法人社団輝生会）の講演では「ICFに立ち返って何をやらなければならないのか考える、語ることでできない人の思いをどう引き出すか、情報収集の必要性・共有化、生活の場を生かした評価ができる力を持つ、地域づくり」など患者様の立場に立った言語聴覚士の役割を学びました。その中でも「かかりつけ言語聴覚士」という考え方は、これからの時代に私たちが地域の中で何をしなければならないのかという課題をいただいたように思います。

シンポジウムでは、急性期・回復期・訪問リハビリの領域でご活躍されている先生方から、それぞれの立場で現状・工夫・課題を報告いただき、ディスカッションを行い「連携」の必要性を学ぶことができました。

最後になりましたが、第5回という節目の回に大会長を務めさせていただきましたことに深く感謝申し上げますとともに、この大会で学び得たことが皆様のご活躍に生かされ、山梨県言語聴覚士会の益々の発展に繋がっていくことを祈念致します。



## 生活を見据えた言語聴覚療法とは ～今大会を通じて考えたこと～

甲府城南病院 吉澤 由香

今大会、初めてシンポジストとしてお話する機会を頂きました。“生活を見据えた言語聴覚療法”という我々言語聴覚士の普遍的なテーマのなかで、私が「何を伝えられるのか、何を伝えればよいのか」、当日まで非常に思い悩みましたが、回復期に携わる言語聴覚士として、和泉先生（急性期）・元木先生（在宅）とともに、各ステージにおける言語聴覚士の役割や次の展開を意識した情報提供の工夫等を、実際の取り組みを交えながら発表しました。上杉由美先生、半田理恵子先生の特別講演では、生活支援では個別性が尊重さ



れるぶん、対応の柔軟さとより高い専門性が必要であり、家族や多職種との情報共有や協働が不可欠である事を学びました。

今後、“言語聴覚士だからこそできる”支援を行っていく為にも、知識・技術・コミュニケーション能力など専門性を高めるとともに、多職種・地域社会とのより深い連携を図っていきたいと思います。最後に、貴重な機会を与えて下さった望月大会長をはじめ、ご尽力頂いた実行委員の先生方に感謝申し上げます。

## 山梨県言語聴覚士会 第5回学術大会に参加して

湯村温泉病院 浅利 さとみ

今回、回復期リハから訪問リハに至る現在まで、長期間に渡り担当している症例について口演発表の機会をいただきました。発表を通して、また、上杉先生、半田先生の特別講演を伺って、地域に戻った患者さんの自己決定を尊重し自分らしい生活を築くことを目的に、機能面・能力面の改善だけでなく、それを活用できるようなコミュニケーション環境を調整していくことが言語聴覚士の役割であるということ再認識できました。また、発症後10年以上経過した失語症の方も改善がみられているというお話を伺い、長期的な関わりも大切であると実感しました。しかし、長期にわたるリハビリテーションは現行の医療保険制度では困難であり、介護保険領域に携わる言語聴覚士も少ないため、先生方のような関わりは難しい現状があります。その中で、地域に戻った患者さんや家族が安心して頼れるような「かかりつけ言語聴覚士」に近づけるよう、今後も日々の臨床に励んでいきたいと思ひます。最後になりましたが、発表にあたり、実行委員、査読委員の方々など多くの皆様のご協力に深く感謝申し上げます。



## 山梨県言語聴覚士会第5回学術大会 アンケート結果より

第5回学術大会の参加者を対象に実施したアンケートにおいて、多くのご意見・ご感想を頂きました。特に特別講演では、生活期の言語聴覚士介入がその方の人生にも影響を与えうることなどを症例を通して提示して頂き、改めて長期的な支援のあり方について参加者一人一人が考えさせられる内容であったと思います。皆さんから寄せられたコメントより、その一部を紹介いたします。

### ◆口述発表◆

- ・今年の演題には失語症の症例検討がなかったが、在宅でのリハや小児領域などを含め、幅広い内容で興味深かった。
- ・自分が担当している患者様と類似したコミュニケーション障害の患者様について発表されており参考になった。
- ・他病院の取り組みを知ることができた。自身の日々の取り組みを振り返る機会となった。
- ・小児や聴覚の発表が増えるとよい。
- ・質問に対する回答をもう少し簡潔にできるとよい。

### ◆特別講演◆

- ・対象者のその後の人生を見据え、長きにわたって関われるSTのあり方を知った。
- ・地域社会への復帰に繋がられるようリハビリを心がけていきたい。
- ・「かかりつけST」という言葉が目指すST像と重なり印象に残った。画一的な訓練ではなく、本当にその方に合ったリハビリを提供する為により能動的にアプローチしたい。
- ・回復期の短い期間でしか患者様と関わっていないが、長く関わることで見えてくるものが沢山あることを知り、大変勉強になった。
- ・生活期のおもしろさ・大切さを感じることができた。
- ・情報収集の意義・工夫点など詳しく聞かせて頂き、重要性を再確認した。
- ・制度上の問題もあるが、長期に関わることの必要性について私たちからも発信していけるようにしたい。

### ◆シンポジウム◆

- ・STはその人らしく生きることを支援する職業であると思う。どの勤務領域においても、患者様の生活を念頭に置きながら関わっていく必要があると感じた。
- ・ご本人への配慮も大切だが、ご家族との関わりにおいても声かけや相談にのれるような心がけが大切だと思った。
- ・可能な限り長い関わりで患者様・家族の支援ができればよいと思うが、全てを自分が出れない分、他機関・他職種との連携が積極的に図れるよう力をつけていきたい。
- ・半田先生が仰っていた「焦らずに」の言葉を大切に、患者さんと向き合っていきたい。
- ・写真の中の患者さんの笑顔が素敵だった。「生活を見据えた訓練」は今後、自身で課題にしていくべき内容だと思った。

(第5回学術大会アンケート コメント欄より抜粋)

# 学会・研修会 参加報告

## 平成24年度山梨県病院協会 PT・OT・ST 部会研修会

甲州リハビリテーション病院 宮原 梨恵

平成24年10月25日、山梨市民会館において山梨県病院協会 PT・OT・ST 部会研修会が開催され、言語聴覚士会としては今回が初めての参加となりました。

今回は、「高次脳機能障害リハビリテーションのエビデンスー病院から地域へー」というテーマで東京慈恵医科大学附属第三病院の渡邊修先生のご講演を聴かせていただきました。高次脳機能障害の訓練のエビデンスや地域支援を中心にお話を聴くことができました。臨床にすぐに活かせる、とても勉強になる内容でした。

今回の講演を聴いて、高次脳機能障害の方が地域・社会で安心して生活ができるようになるために、言語聴覚士としてご本人やご家族からの声をゆっくりとじっくりと聴くことが大切であると改めて感じました。そのことから、先生が最後におっしゃっていた“リハビリテーションの目的はその方の QOL＝生活の質を向上すること”を目標にセラピストとして関わっていきたいと思いました。

---

## 第17回・第18回共催 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 安富 朋子

平成24年8月31日～9月1日の2日間、札幌市内の4会場にて第17回、第18回共催「日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会」が行われました。

今回は「摂食・嚥下リハビリテーションー夢を語り、未来を描くー」をテーマに、800題に迫る一般演題と8題のシンポジウム、教育演習3題、招待講演3題、内視鏡のハンズオンが開かれました。また、学会初めての企画として、国際交流のためのイングリッシュセッションも行われました。

学会というものに初めて参加させていただき、4会場という会場の広さや人の多さに始めは圧倒されました。しかし、リハ医師、歯科医師、看護師、栄養士等、様々な専門職の方々が集まり、各々の立場・視点から繰り広げられる熱い討論に深い感銘を受けました。他職種との視点の違いを肌で感じ、専門家各々の意見を合わせることで、患者様のよりよい生活へつなげられる可能性の大きさを痛感しました。また「食べられるようになったのは患者さんの努力、食べられないのは私たちのスキル不足」という言葉が心に残りました。その言葉を忘れず、日々自分自身の知識、人間性、スキルの向上を図っていきたくと強く感じました。

# 新設局・部の紹介

## ～社会局・地域連携部～

甲府共立病院 和泉 裕二

これまで、山梨県言語聴覚士会地域部は広報局の中に位置づけられ活動をしてきました。2012年度から社会局が新設され、地域連携部と職能部の2つの部で構成され、活動を開始しています。

地域部から地域連携部への名称の変更に関して、これからの言語聴覚士会活動が地域住民の方々に親しまれ、また他職種との連携を図っていく事で医療活動の充実が期待され、地域の中で躍進してだけでなく、当士会自体が更なる発展を遂げていく意味が込められています。

活動内容としては、医療・介護保険領域の情報収集、地域における当事者団体との連携や交流があります。具体的には地域リハビリテーション従事者研修会をはじめ、地域リハビリ関連の催しへの協力、「いきいき山梨ねんりんピック」への出展や「山梨県失語症者のつどい」への協力などが挙げられます。

上記のような地域連携部の活動を更に活発にし、言語聴覚士会活動の飛躍の為には会員の皆様の御協力が必要となります。今後とも地域連携部への御理解と御協力をお願い致します。

以下に、2012年度に行った地域連携部の活動を報告致します。

---

### 『山梨県言語聴覚士会 第2回 子どものことばの相談会』 報告

甲府共立診療所 宮里 なつき

平成24年9月23日(日)、地域連携部の活動の一貫として『子どものことばの相談会』が実施されました。

今年度は、県の健康増進課に加えて児童家庭課と連携し、保健師だけでなく保育士を通じて相談会の周知を図っていただきました。そのため、県内の幅広い地域から23名の申込みがありました。どのご家族も、お子さんの抱えることばの悩みを専門家に相談することで不安を解消し、今後につなげることが出来ました。今後も相談会を定期的実施していく必要性を改めて感じました。

ことばの相談会では、小児分野の臨床経験を重ねた言語聴覚士と経験の浅い言語聴覚士がペアとなって相談を行っています。そのため、若手の言語聴覚士にとっては、職場を超えて子どもに対する視点や評価など大変多くのことを学ぶ場となっています。

## 「いきいき山梨ねんりんピック」に参加して

山梨リハビリテーション病院 萩原 由香

道の両側を埋め尽くした多数の幟で出展ブースの長い通りができていて驚きました。昼前から厳しい日差しが照りつけているにもかかわらず、間断なく人が行き来し始めました。言語聴覚士のブースは一番端で、各ブースを見ようと入って来られる方々全員にお声がかけられるお得な場所でした。「いかがですか」とパンフレットやサンプルゼリーを見せながら近づくとほとんどの方が、足を止めて話を聞いてくれました。「カラオケで声が出なくなってきたけどどうしてかな」などと尋ねてくる方もいらっしゃいました。

「頭の体操、いかがですか」と仮名ひろいテストにお誘いすると、積極的に行ってくれる方が多く、結果について一緒に拍手して喜んだり、悔しがったりして楽しかったです。

「来て良かった」と喜んで帰られる方もいらっしゃったので良かったです。言語聴覚士の仕事について端的に説明できなかつたのが反省点です。



---

## 第17回山梨県失語症者のつどいに参加して

石和共立病院 鈴木 千裕



12月2日(日)に韮崎市民交流センターで「山梨県失語症者のつどい」が開催されました。実行委員として大会当日は参加者の方々に少しでも役に立ちたいという気持ちで参加させていただきました。今年は長野失語症友の会の方々におこしいただき、コミュニケーションワークショップを体験しました。会場全体で大きな声で発声したり、役になりきって自分を表現したりしました。参加者の方々の笑顔を見てとても温かい気持ちになりました。また、長野失語症友の会(ぐるっと一座)の劇を鑑賞し、発症した時の悲しみや焦りを表現した演出に

引き込まれ、言語聴覚士として失語症の方々の戸惑いや悲しみを汲み取れるようになりたいと思いました。このような会は失語症者同士・ご家族が勇気をもらえるのではないかと感じました。今後このような機会がありましたら積極的に参加したいです。

# ◆◇◆各局からのお知らせ◆◇◆

## 事務局

### 総務部

●平成 24 年度第 5 回理事会を 11 月 29 日（木）に開催しました。詳細はホームページに掲載してありますのでご覧下さい。第 6 回理事会は、2 月下旬に開催予定です。

●平成 24 年 10 月～12 月の会員動向についてお知らせします。

新入会員            櫻井 美紀先生（山梨リハビリテーション病院）

改姓（旧姓）      小室（伊藤）理恵子先生（甲府城南病院）

岸（森谷）友羽先生（笛吹中央病院）

河合（野澤）沙織先生（富士吉田市立病院）

退会                多田 瑞穂先生（石和温泉病院）

國井 真嗣先生（国立甲府病院）

※名簿記載事項に変更がありましたら、総務部河西までご連絡下さい。

届出用紙は県士会ホームページからダウンロードできます。

### 財務部

●平成 24 年度分の年会費は全会員の方に納入していただきました。  
ご協力ありがとうございました。

## 学術局

### 学術部

#### 【活動予定】

#### ●平成 24 年度 第 3 回 学術講演会

日時：平成 25 年 3 月 7 日（木）18：30～20：30

会場：甲州リハビリテーション病院 大木記念ホール

講師：山口 和之先生（前衆議院議員、福島県理学療法士会 会長）

テーマ：「言語聴覚士の身分と生活を自ら守るために一国政への関わりー」

#### ●平成 24 年度 第 4 回 学術講演会

日時：平成 25 年 3 月 27 日（水）18：30～20：30

会場：甲州リハビリテーション病院 大木記念ホール

講師：秋山 賢一先生（あきやま歯科医院 院長） 保坂 みさ先生（あけぼの支援学校）

テーマ：「小児の摂食・嚥下障害（仮）」

#### ●平成 24 年度 生涯学習基礎講座

日時：平成 25 年 2 月 14 日（木）18：30～20：30

会場：甲州リハビリテーション病院 大木記念ホール

講座：「職種連携論」                      石原 徳子先生（甲州リハビリテーション病院）

「協会の役割と機構」      佐々木 蘭子先生（春日居サイバーナイフ・リハビリ病院）

## 研修部

### 【活動予定】

#### ●平成24年度 第5回症例検討会

日時：平成25年2月21日（木）18：30～ 会場：ぴゅあ総合

発表者：①巨摩共立病院 後藤 佑介先生

バイザー：ノーサイドクリニック 渡辺 そのみ先生

発表者：②山梨大学 前田 恭子先生

バイザー：今村耳鼻咽喉科 金子 正子先生

#### ●小児領域勉強会

日時：平成25年1月19日（土）14:30～ 会場：甲府共立診療所

内容：「小児の構音指導の実際」

講師：善誘館小学校ことばの教室 朝比奈 恵美先生

## 教育部

平成24年10月3日に第4回新卒者研修会を開催し、本年度の新卒者研修会は終了いたしました。会員の皆様、ご参加・ご協力ありがとうございました。

## 社会局

### 職能部

- 山梨県でも11月、医療・介護連携推進協議会が発足し、他職種協働による在宅チーム医療を担うリーダー会議、在宅療養者支援対策委員会が開催されました。Sも専門性を活かし、支援ネットワークに参加・協力していきます。
- 第3回山梨県訪問リハビリテーション実務者研修会が11月3～4日、大木記念ホールにて開催されました。学術大会の前でもあり、ST参加者は3名でした。
- 地域リハビリテーション従事者研修会が12月5日、ぴゅあ総合にて開催されました。
- 山口和之前衆議院議員の講演会（山梨県PT連盟主催）が12月6日、県立文学館で開催されました。
- 山梨県言語聴覚士会所属施設職域アンケートを実施致しました。皆様のご協力を感謝申し上げます。

## 広報局

### 会報 編集部

山梨県言語聴覚士会 NEWS の企画・校正・発行を行っています。

- 第25刊 平成25年2月発行
- 第26刊 平成25年5月発行予定

### HP 管理部

山梨県言語聴覚士会ホームページの管理・運営を行っています。

会員向けお薦め情報（推薦図書・教材、イベント情報、ちょっと一息）は、毎月更新しています。会報 web 版はカラーで見ることができます。また、トップページには県士会イベントの写真も使用させていただきます。ぜひ、ご覧下さい。

## 病院・施設紹介

### 医療法人 石和温泉病院

当院は、昭和 39 年に笛吹市石和町に開設され、昭和 62 年からは健康増進センター「クアハウス石和」が併設されました。回復期リハビリテーション病棟・療養型病床を有し、総合在宅支援（居宅介護支援事業所・通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション・ショートステイ）、TMS 短期集中入院など、予防医療からリハビリテーション、そして在宅医療までをトータルに考え運営



されています。言語聴覚士は、回復期リハビリテーション病棟にて脳血管疾患・廃用症候群の患者様を対象にリハビリテーションを行っています。平成 24 年 6 月からは、理学療法・作業療法に続いて言語聴覚療法も 365 日診療体制となりました。現在、スタッフは 7 名（男性 3 名、女性 4 名）。勤続 35 年のベテランから新卒 1 年目の若手まで世代も個性も様々なメンバーですが、集まれば笑顔が絶えません。和気あいあいとした雰囲気の中で、先輩方の厳しくも温かいご指導に支えられ、日々の臨床に励んでいます。（文責 南 曜子）

## ふるさと紹介 ～長野県上田市～

一宮温泉病院 倉島 雪乃

皆さんは鬼平犯科帳や真田太平記の池波正太郎はご存知でしょうか。知らない、とおっしゃる方もいると思います。では、真田幸村はどうでしょうか。私の故郷である「上田市」は、真田氏に非常にゆかりの深い地です。駅から歩き程なくすると、真田の城である上田城にたどり着きます。徳川の軍勢を二度も撃退した当時の姿はありませんが、現在では櫓門が再建され、その頃の様子を想像させてくれます。また、この見所はなんといっても堀の周囲に植えられている桜です。この桜が一斉に咲き乱れる時期に行われるのが「上田千本桜祭り」です。夜の闇の中から、提灯に照らされて浮かび上がる桜の花びら。また、堀の中にゆっくり流れる花筏（はないかだ）。それを眺めながら呑む亀齢（きれい：全国でも珍しい女の杜氏さんがいる岡崎酒造のお酒です）。城下では池波正太郎の愛した刀屋（蕎麦屋）があり、その他おいしいものも沢山あります。

最近では色々なものとタイアップしています。観光だけでなく、様々な作品と一体化して楽しむことのできる町です。皆さんも是非一度いらしてください。



<上田城 夜桜>

# ～ちよつといい話～

石和温泉病院 深沢 有里

「5年経ったら片目が開いて、10年経ったら両目でしっかり患者様を見られるよ」

働き出した頃に、敬愛する先輩から頂いた言葉でしたが、当時の私にはその意味がよくわかりませんでした。その後、二人の患者様に会い、その言葉の意味を実感しました。一人は、失語症の流暢タイプの患者様でした。発症からの経過が長く、認知症や白内障も合併しており、私のはやる気持ちとは裏腹に訓練導入の難しい方でした。三味線の先生で、普段の発話はジャーゴン様でまったく聞き取れませんでした。他人の三味線の演奏テープに「それではだめ、このように」など、しっかりとした口調で指導していました。もう一人は、非流暢で努力的な発話の方でした。訓練に拒否的で挨拶をしては怒られ、胃の痛む日々が続きましたが、「歌」がきっかけになり訓練に来てくれるようになりました。ところが鼻歌交じりで少し歌えるようになった頃、「もう大丈夫」と笑顔で訓練を拒否されました。ようやく手ごたえを感じ、これからと思った矢先の事でした。

あの言葉から十数年が経ち、二人の患者様に今だったらどんな対応ができるかと、ふと思い返します。両方の目は開いたかと思いますが、近眼の私にはまだまだぼやけて見えているようです。まだまだ修行中です。

## 会員Pick Up!

～ 山梨福祉総研 小関 公一先生のこの一冊 ～

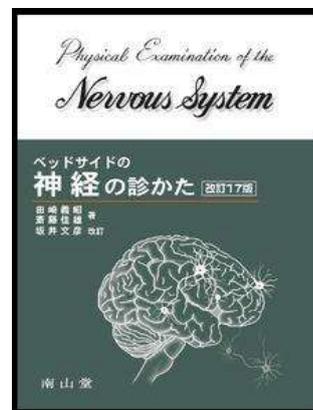
紹介本：「ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版」

田崎義昭/斉藤佳雄著 南山堂 7200円＋税

私がこの本に出会ったのはまだ新人の頃で、すぐ使えるテキストとして実際に患者さんの症状と照らし合わせながら使った本です。

当時、神経学の基礎も知らない新人で、医師でもないのにハンマーやペンライトを使い、患者さんの状態を調べていった記憶があります。臨床神経学の基礎を学びました。患者さんの状態を適切に理解したい臨床家なら一度は目を通してよい名著です。改訂も繰り返して出版されていることがその証明です。

また、本の中で著者である田崎義昭先生の恩師である相澤豊三先生が本の序文で以下のようにおっしゃっています。「その時に適切な治療を行う上で臨床検査だけでなく、患者さんの病歴をいかに聴取していくか、ただ聞くのではなく、要点を引き出すごとく聴くという事が神経疾患の臨床に携わる者として重要なことである。」名言です。常に謙虚に患者さんから学ぶ姿勢をもち続けていきたいと思えます。



## <編集後記>

今年、東京ディズニーリゾートは30周年を迎えます。洗練されたエンターテインメント性や顧客満足度の高さ、キャストの笑顔で礼儀正しい姿は、常にあらゆるサービス業の手本とされています。2年前の東日本大震災当日、私はディズニーシーにいました。未曾有の災害であり、キャスト自身も不安であったはずなのに、ゲストの安全を第一とした冷静な対応(でも笑顔)は圧巻で、とても心強いものでした。

「逆境の中で咲く花はどの花より貴重で美しい」というウォルト・ディズニーの言葉があります。今年の干支は巳年です。蛇は天地創造の昔から知恵・財産をもたらす神様であり、暗夜の中で光明となる灯火とされています。逆境とも言える出来事の多い今の日本。光に照らされ、新たな一年が幸せなものとなるよう祈りたいものです。

### 山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所> 山梨県言語聴覚士会

<発行人> 内山 量史

<編集> 山梨県言語聴覚士会 広報局会報編集部

石和温泉病院 高橋 正和・南 曜子

石和共立病院 小川 洋美・澤中 麻由

一宮温泉病院 杉山 達也・平山 麻早美

春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 外間 玲香

甲州リハビリテーション病院 石原 徳子・赤池 絢

甲府共立診療所 宮里 なつき

甲府城南病院 廣瀬 由紀・脇坂 英寿

市立甲府病院 丸井 章子

湯村温泉病院 又吉 梓

<事務局> 春日居サイバーナイフ・リハビリ病院 言語療法科内

〒406-0014 山梨県笛吹市春日居町国府 436

TEL:0553(26)4126 FAX:0553(26)4366

<発行日>2013年2月1日 第25刊